

## 【成分】

有効成分はいくつか分離されています。特に良く調べられている成分は、ヒペリシン (hypericin) とヒペルフォリン (hyperforin) です。他にシュードヒペリシン (pseudohypericin)、フラボノール類、テルペン類、精油、タンニン、ニコチン酸、ビタミンCなどがあります。

## 【副作用と注意事項】

セント・ジョーンズ・ワートは、日光に対する感受性を高める可能性があります。日光への過度の照射を避けるようにしましょう。その他の副作用として、不眠、不安、口渇感、めまい、消化器症状、倦怠感、頭痛などがあります。

妊婦・授乳婦は危険性が示唆されていますので、使用を避けてください。

セント・ジョーンズ・ワートは、精神疾患の治療薬としては認可されていません。精神疾患のある人は適切な治療を行わないと、重症化する場合もありますので、医療機関を受診してください。



## 【健康被害に関する注意喚起等】

厚生労働省は2000年5月10日、セント・ジョーンズ・ワートを含有する健康食品を摂取する場合は、医薬品との飲み合わせによる健康被害に注意するよう、お知らせを出しています。

また、飲み合わせがある医薬品の添付文書（説明書）にも、注意喚起の情報が掲載されています。

## お薬に関する問い合わせがあるとき

くすりなんでもテレホン



092-271-1585

(月～金 9:00～17:30 土 9:00～12:00)

福岡県薬剤師会薬事情報センターでは、一般の方のご質問を電話で受けています。くすりの使用方法や取り扱い方などに関する質問をおよせください。  
子どもさんが誤って化粧品など食べ物でないものを、飲んだり食べたりした場合の対処方法についても受け付けます。実際の診療に関わる内容については、かかりつけの医療機関、主治医にお問い合わせ下さい。

## 「薬事情報センター」のホームページ

知っていますか？  
くすりの正しい使い方  
読むおクスリ

当センターに寄せられた  
質疑応答をご紹介  
質疑応答

新薬・報告品目情報  
医薬品情報

消毒薬の使い方をご紹介  
消毒薬一覧

くすりに関するご質問に  
お答えしています  
くすりQ&A

副作用等が防止できた  
事例をご紹介  
相談事例

コンテンツいっぱいの当ホームページへ  
ぜひアクセスしてみてください。

福岡県 薬事情報センター

<http://www.fpa.or.jp/johocenter/yakuji-main.html>



公益社団法人福岡県薬剤師会  
薬事情報センター

FAX 092-281-4104 E-mail f-pic@fpa.or.jp

月～金 9:00～17:30 土 9:00～12:00

Vol. 8

健康食品の正しい知識で健康ライフ

上手に使おう  
健康食品



今回のテーマ

セント・ジョーンズ・ワートと  
医薬品の飲み合わせ

公益社団法人福岡県薬剤師会  
薬事情報センター

TEL 092-271-1585

# セント・ジョーンズ・ワートと 医薬品の飲み合わせ

## セント・ジョーンズ・ワートとは

セント・ジョーンズ・ワート（セイヨウオトギリソウ）〔英名：St.John's wort、別名：ヒペリカムソウ、学名：Hypericum perforatum L.〕は、主にヨーロッパから中央アジア一帯、北アフリカに広く分布しているオトギリソウ科の多年草植物です。黄色の花をつけ、古代ギリシャで最初に医薬品として利用した記録があります。



歴史的には、精神疾患や神経痛の治療に用いられてきました。今日では、民間療法又は伝統療法に用いられています。

セント・ジョーンズ・ワートは、ハーブティーとして用いられるほか、健康食品として濃縮抽出物の錠剤やカプセル剤が市販されています。



### 〔文献〕

「健康食品」の安全性・有効性情報 ホームページ  
「統合医療」情報発信サイト 厚生労働省ホームページ  
平成12年度 医薬品・医療用具等安全性情報 No. 160

## セント・ジョーンズ・ワートと

### 医薬品との飲み合わせは？



多くの医薬品の作用に影響を及ぼします

※健康食品は医薬品ではないので、病気の治療を目的に使用しないようにしましょう。



飲み合わせがある主な医薬品の一部です。セント・ジョーンズ・ワートを含有する健康食品を摂取する場合は、医薬品との飲み合わせに問題がないか、薬剤師・薬局に確認してもらいましょう。

### 作用が減弱する医薬品の例

セント・ジョーンズ・ワートは、医薬品を分解する酵素の量を増加させます。その結果、消化管からの医薬品の吸収が減少することなどにより、**医薬品の作用が減弱します。**

#### （医薬品の例）

- ◆抗HIV薬（アタザナビル、インジナビル、エファビレンツ、エルビテグラビル、サキナビル、ダルナビル、ネビラピン、リトナビル、リルピビル等）
- ◆抗HCV薬（アスナプレビル、エルバスビル、グラソプレビル、シメプレビル、ソホスブビル、ダクラタスビル、パニプレビル、バリタプレビル、レジバスビル等）、◆抗HBV薬（テノホビル等）
- ◆抗ヘルペス薬（アメナメビル）
- ◆血液凝固阻止薬（ワルファリン等）、◆抗血小板薬（チカグレロル）
- ◆免疫抑制薬（エベロリムス、シクロスポリン、タクロリムス）
- ◆女性ホルモン（エストラジオール）、◆経口避妊薬
- ◆強心配糖体（ジゴキシン、メチルジゴキシン）
- ◆気管支拡張薬（テオフィリン等）、◆抗てんかん薬（カルバマゼピン、フェニトイン、フェノバルビタール等）
- ◆抗不整脈薬（アミオダロン、キニジン、ジソピラミド、プロパフェノン、リドカイン）
- ◆抗悪性腫瘍薬（イマチニブ、イリノテカン、エルロチニブ、ゲフィチニブ等）
- ◆片頭痛治療薬（エレクトリプタン）



### 作用が増強する医薬品の例

セント・ジョーンズ・ワートは、脳のセロトニン作動性神経を活性化するとされています。以下の抗うつ薬等を併用すると、作用が増強し、**セロトニンに関連した副作用が現れやすくなる可能性があります**（発汗、頻脈、高血圧、下痢、嘔吐、錯乱、ふるえ等）。

#### （医薬品の例）

- ◆選択的セロトニン再取り込み阻害薬（SSRI）：エスシタロプラム、セルトラリン、パロキセチン、フルボキサミン
- ◆セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬（SNRI）：デュロキセチン、ベンラファキシン
- ◆ミルタザピン 等